

新学部におけるダンス関連授業（「身体表現論」「ダンス」）への取り組み
ーコミュニケーション能力に着目してー

村田芳子（平成国際大学） 幅田彩加（平成国際大学）

1. はじめに

学校現場における子どものコミュニケーション能力の低下やスポーツ指導者による体罰やパワハラが社会問題になっている現在、体育・スポーツ系大学では、競技力向上のみならず、多様なコミュニケーション能力の育成が課題となっている。

平成29年度に新設された本学スポーツ健康学部では「高いコミュニケーション能力を有したスポーツ指導者」の育成を掲げており、コミュニケーション関連科目の一つとして「身体表現論」（学部必修）の授業が平成30年度より開講されている。この授業では、「身体表現」というくくりからダンスとスポーツを捉え、両者の意義と関係性を探っていくことをテーマとしている。

本研究では、コミュニケーション能力に注目し、「身体表現論」の授業の取り組みを通して、体育・スポーツにおける身体表現・ダンスの位置づけと新たな可能性を見出すことを目的とした。

表1『身体表現論』授業の概要

授業回	授業内容	グループワーク課題
1	オリエンテーション:「身体表現論」の授業の内容と進め方について	
2	「身体表現とコミュニケーション ～ダンスとスポーツの特性と新たな結びつき～」 ・表出と表現	自分のスポーツ種目の中にある身体表現について
3	スポーツの中に見られるいろいろな身体表現・コミュニケーション	①スポーツでの「サインやジェスチャー」とダンスの身体表現とはどのように違うか？ ②様々なスポーツに見られるダンスやダンス的要素について
4	いろいろなダンスの種類と学校で取り上げる3つのダンス	①思いつくダンスの種類を書き出す、② やったことのあるダンスに○をつける、③ グループで紹介し合う、④ グループで相談しながら分類を行う
5	学校で学習する3つのダンスの内容と特性(魅力・特徴・意味・価値)	過去のダンス授業と問題点
6	“身体”について ・芸術とスポーツ	①日常生活や運動の中で身体を意識するのはどんな時？ ②自分の種目において求められるのはどのような身体か？
7	ダンスにおけるリズム、動き、流れ ・動きの3要因	それぞれのスポーツ(運動)における「ひと流れの動き」と「リズム」について
8	リズムダンスに関する用語 ・「魅せるプレー」と「魅せてしまったプレー」(過去の優秀レポート) ・柔道とコンタクト・インプロヴィゼーション(過去の優秀レポート)	レポートのためのテーマ探しの課題(→提出)
9	芸術としてのダンス ・パフォーマンス、ノンバーバルコミュニケーション	関連性から並べてみよう[スポーツ、ダンス、演劇、音楽、建築・工芸、絵画、文学]
10	即興表現とコミュニケーション ・ダンスセラピー(過去の優秀レポート) ・アイソレーション(過去の優秀レポート)	各自提出したレポートをグループで読み直し ① 各自のコメントチェックを記入 ②グループで評価を決め、優秀で面白いレポートを決める。優秀者は来週発表。
11～15	選ばれた優秀レポートの発表1～5回	

2. 研究方法

(1)授業の概要(表1)

2018年度春学期に2年生対象に開講された「身体表現論」(全15回)の概要は表1に示す通りである。本授業では、ダンスとスポーツを「身体を通した人間間の相互交流(身体的コミュニケーション)」として捉え、毎時のテーマとして、表出と表現、身体、即興性、動き(リズム、連続性など)、ゴルフフリー学習などを取り上げ、講義と並行して、グループディスカッションやレポート発表などの主体的で双方向的な活動を入れた。

(2)調査内容

本報告では、春学期受講者37名の最終課題レポートにおける設問「この講義全体を通して印象に残っている言葉(3～5つ)とその理由」と設問「ダンス・スポーツへの理解や考えの変化の内容」の自由記述回答を中心に、受講生の受け止めと意識の変化の傾向を分析した。

3. 結果と考察

(1) 全体を通して印象に残った言葉・内容

表2は講義全体を通して印象に残った言葉を多い順に示したが、「小さい頃は皆ダンサー」のような「人は本来『踊る』存在」という身体表現の始まりへの反応が高かった。また、即興表現やリズムへの反応も高く、これらはスポーツとの関わりの中で新たな気づきをもたらしたと思われる。

表2 印象に残った言葉・内容

票数	印象に残っている言葉・内容
7 (4)	「小さい頃は皆ダンサー」(10歳の壁、表現の始まり)
7	即興表現とコミュニケーション・即興の世界
7	身体表現とコミュニケーション
6 (5)	リズム(エンドカウント、アフタービート、オンビート)
6	心と体をほぐすダンスセラピー
5 (4)	色々なダンスの種類と学校で取り上げる3つのダンス(ダンス教育)
5	世界中で踊るマツさんの映像
5	パフォーマンス
4	コンタクトインプロヴィゼーション・映像
4	芸術作品の関連性・パフォーマンスアート
3	「言葉にできないものがある、言葉にしたくないものがある」
3	動きの3要因
3	五感、身体感覚

(2) ダンス・スポーツへの理解や考えの変化

表3は、自由記述を内容別に分類して示しているが、身体的コミュニケーション、スポーツにおけるダンス的動きの要素、身体表現の3つに分類できた。各分類の記述内容をみると、本授業のねらいは受講生の新たな認識の変化につながっていることが示唆された。

表3 ダンス・スポーツへの理解や考えの変化

記述内容	分類
スポーツとダンスは人と人を繋ぐコミュニケーションツール	身体的コミュニケーション
スポーツは体で語り合えるもの	
身体表現でのコミュニケーションがスポーツで大切である	
言葉で交わることも大事だが身体を使うことによってより親密な関係を築いていける	
ダンスは人とコミュニケーションを取る上で心と心をつなぐことの出来るもの	
身体表現は様々な場面で知らず知らずのうちに使っていたり見たりしていた	スポーツにおけるダンス的動きの要素
体と体が触れ合うことで言葉ではない違う何かを感じられたり、他者は私と異なると言う相手を尊重する思いを掴める	
言葉だけでなく身体によるものもコミュニケーション	
ダンスという動きはスポーツにおいて基礎基本	
ダンスにおける即興や体の使い方はどのスポーツにとってもブレイクスタイルを幅広くしてくれる	
体を動かす感覚的な面で活かせることがかなりある	身体表現
アイソレーションを使うことで、サッカーで例えるならばフェイントに応用できる	
野球の時に意識してリズムをとるようにしています。	
リズム・テンポが重要で、これをもっとうまく使えるようになれば、スポーツにも活かせる	
(スポーツで)自分の感情、即興性など重視していく必要がある	
(バレーボールで)メリハリを使用した体の動きで相手のブロックをかわしたり、相手のリズムと違うリズムであって動くことによって確実に決定率をあげることができた。	身体表現
人は無意識に表現していて、子供と大人では心の違いで身体表現が大きく変わってしまい、特に日本人は身体表現がとても苦手	
表現方法が違うだけで、どの表現も根っこ部分は身体表現から始まっている	
様々な日常の動きやスポーツの動きを取り入れるだけでダンスになる	

以上のように、スポーツを身体表現として捉える視点への受講生の反応は高く、ダンスを窓口身体表現の始まりや多様性に触れることで、ダン

スとスポーツの結びつきについて新たな気づきを得ていることが明らかとなり示唆され、身体表現や身体的コミュニケーションという本授業の視点がスポーツや体育における課題解決の糸口や新たな可能性を示唆するものであったといえよう。

4. まとめ

今回取り上げた「身体表現論」の授業はまだまだ模索の段階であるが、身体表現というくりから捉えることによって、学生にとっては、スポーツやダンスの現象や新たな課題に気づき、探究し、他者と話し合い、プレゼン(表現)するという体験の場となっていたと思われる。

特に、記録や勝敗などの明確なゴールや技術などの外の形にとらわれがちなスポーツの学生たちに、表現と密接につながる身体の内的な感覚からとらえるという「見えにくい価値や内感」(想像力)、「常に変化するプロセス」というダンス独自の発想や価値が新たな気づきにつながり、こうした身体を介したコミュニケーション力の育成につながっているということが示唆された。

なお、本学部では、コミュニケーション関連科目担当者からなるコミュニケーション研究班(心理学、身体表現・ダンス、コーチング学の6人)の共同研究を継続中である。開設当初より新入生全員を対象にした「コミュニケーション能力に関する基本調査」を経年的に年2回実施しているのに加え、各授業での調査も行っている。これらの共同研究を進める中で、コミュニケーション力の育成プロセスは、言葉や身体を通して他者とのかわりを実際に体験する「対人関係論」「体ほぐしの運動」「ダンス」の段階から、「身体表現論」「コーチング論」「コミュニケーション実習」の授業を通じた表現力、応用力、指導実践育成の段階へと発展することが示唆される。

参考文献

片岡康子他(1991)舞踊学講義. 大修館書店
 筒井茂喜(2018)非言語コミュニケーションの教育としての体育の可能性—非言語メッセージの受信・解読に着目して—. 体育科教育学研究, 34(2), 27-41